

1. 内政・外交

- COP26 関連
- 1日、COP26 に出席したアリ・ボンゴ大統領は、各国元首に向けて演説を行った。同大統領は、主要排出国20か国に対し、気候に関する新たな国家計画を提出するよう再度呼びかけた。(1日付GMT)
- COP26 の一環で、アリ・ボンゴ大統領は、ジョー・バイデン米大統領、チセケディ・コンゴ(民)大統領、ボリス・ジョンソン英国首相とともに、森林に関するパネルディスカッションに参加した。この機会にアリ・ボンゴ大統領は、地球温暖化対策に関するガボンのコミットメントを改めて主張し、アフリカ大陸の心臓及び肺としてのコンゴ盆地の重要性に言及しつつ生物多様性の保全に向けたアフリカ諸国の努力を支援する必要性を参加者に訴えた。(2日付GMT)
- アリ・ボンゴ大統領は、COP26 のマージンで、パトリシア・スコットランド・コモンウェルス事務総長と会談した。同大統領は、自身のツイッターにて、「コモンウェルスは、その外交的・経済的重要性を通じて、気候、森林保護、生物多様性の問題に決定的な影響力を持つことができる国際組織のひとつである」と述べた。本会談により、ガボンのコモンウェルス加盟プロセスが加速化された。(3日付GA)
- 5日、パリにおいて、マガンガ・ムサヴ農業・畜産・漁業・食料大臣はベトナムの農業大臣との間で農業のGDPを向上させるために、コーヒー生産を強化し、ガボン・ベトナム間の軸を強化するための意向表明書に署名した。マガンガ・ムサヴ大臣は、「両国が署名した文書は、ガボンのコーヒー部門の発展を支援すること、両国間の植物由来材料の貿易を促進すること、技術移転を行うこと、人材の能力を強化することなどを規定し、コーヒーの価値を高め、貿易を促進することを目的としている。この意向表明書に続いて、ガボンとベトナムの協力関係の内容とレベルをより正確に定義する枠組み合意書に署名する予定である。」と述べた。(7日付GR)
- 11日、実務友好訪問のためモロッコを訪問しているアリ・ボンゴ大統領は、ラバトにおいてモハメッド6世国王陛下と会談を行った。同日、同大統領は「ラバトにおいて、兄弟であるモハメッド6世国王陛下と再びお会いすることができ、とても嬉しく、感動した。本会談は、非常に温かく濃密であった。我々は二国間協力や国際問題、さらにはより個人的な問題について議論した。」とツイートした。(12日付LL)
- 11日、第4回目となるパリ平和フォーラムに参加したアリ・ボンゴ大統領は、南北の国々の間にある不平等も含む不平等解消の必要性を参加者に訴えた。(12日付GMT)
- 12日、アリ・ボンゴ大統領はフランス大統領官邸でマクロン大統領と会談した。平和と安全、気候変動、特にガボンとフランスの協力など、共通の関心事項について議論を行った。(13

日付GMT)

- 13日、アリ・ボンゴ大統領は、創立75周年を迎えたユネスコの第41回総会において、自然遺産、平和及び社会正義の擁護に対する自国のコミットメントを改めて表明し、さらに前進することを約束した。(14日付GR)
- 22日、アダモ国防大臣と Gabriele Di Muzio 駐ガボン・イタリア大使は会談を実施し、イタリア海軍による支援について協議した。同会談は数日前からガボン沖に停泊しているフリゲート艦「Antonio Marceglia」上で行われ、両国の協力関係における重要な一歩となった。(23日付GMT)
- 26日、第52回中部アフリカ安全保障問題に関する国連常設諮問委員会(UNSAC)閣僚会合がリーブルビルで開催され、ブルンジに代わり、ガボンが議長の座を引き継いだ。本会合においては、各国の外相及び代表団長が、特に過去数か月間と来年の選挙プロセスといった中部アフリカ地域の地政学・安全保障の状況について議論を行った。また、テロや暴力的過激主義、特にチャド湖地域やコンゴ(民)東部、中央アフリカにおける武装集団の存在など、中部アフリカ地域における安全保障状況の変化についても検討した。さらに、メディアやソーシャルネットワークにおけるヘイトスピーチに関する啓蒙及び対策の必要性も強調した。(29日付GA)

2. 経済・開発協力

- 3日、マルク・エトウゲ(Marc Etoughe)会長が率いるガボン・コイカ・クラブ(Gabon Koica Club、以下、GKC)は、その年次活動の一環として、メン精神医学センターを訪問し、柳駐ガボン韓国大使及びゴッドフロイ・マヨンボ(Godefroy Mayombo)センター長代理の臨席のもと、医薬品、食料キット、新型コロナウイルス対策のための備品などを供与した。(6日及び7日付UN)
- 8日、ガボンに対して今後3年間にわたり3,060億 FCFA を融資する新たな合意に関するIMF理事会の承認から3か月後、Gomez Agou Gbedia・IMF新事務所長は、経済大臣及び予算大臣臨席の下、首相府においてオスカ・ラポンダ首相と会談を行った。同事務所長は、「本会談の目的は、7月末に経済・財政改革プログラムをIMF理事会に承認させることに成功したアリ・ボンゴ大統領及びオスカ・ラポンダ首相のリーダーシップに敬意を表することであった。右は、我々にとって、改革プログラムを進める決意について、ガボンが国際社会全体に送った強い合図である。」と述べた。(9日付GR)
- 9日、オスカ・ラポンダ首相は、リーブルビル市第6区にあるンゼン・ガイオン(Nzeng-Ayong)用水路の落成式に出席した。ロザリオ・ベント・パイズ(Rosario Bento Pais)駐ガボン EU 大使及びロボティ経済復興大臣臨席のもと、同首相は変革の加速化計画(PAT)の優先プロジェクトの一つである本プロジェクトのテープカットを行った。初期費用118億7,960万8,700 F.CFA の本工事はガボンとEU の実りある協力によるものである。(10日付GR)

出典: UN(ユニオン紙)、GMT(ガボンメディアタイム)、GA(ガボンアクチュ)、GR(ガボンレビュー)、LL(ラ・リーブルビル)

(了)